

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (一般教育等)

○令和6年度の前期、後期、通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。
(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIO との整合性、カリキュラムの問題点等)

【成果・できていること】

- ・「生物学」(全学科・1 年前期) については、現在同時に開講されている科目におけることも学科学生の履修が偏っていることから、シラバス内の「学生へのメッセージ」欄にこども学科の学生に向けたメッセージを追加した。
- ・継続的な検証の結果、科目名称について学生が理解しやすいワードを用いて授業の内容を反映し、社会的ニーズに応答するために、「情報と生活」から「情報・メディアの法と倫理」へ科目名称の変更を行なった。
- ・「生活の化学」について、学科・専攻により 1 年前期と 2 年後期に分けて開講されていることが課題であったが、今年度より全学科 1 年生での履修ができるように調整した。

【課題・できていないこと】

- ・学科・専攻により開講時期が異なる科目があり、今後、非常勤講師への依頼が困難になることが予想される。
- ・「体育実技」について、社会福祉学科社会福祉専攻とこども学科を一つのクラスとして開講しているが、受講者数が多くなってしまう。一方、社会福祉学科介護福祉専攻のクラスでは受講者数が少ないため、クラスによって人数の差が大きくなってしまっている。社会福祉学科社会福祉専攻と介護福祉専攻を一つのクラスとした方が、受講者数のバランスとしては望ましい。
- ・「応用英語」について、現在 2 クラスで開講されているが、履修者が少なく、全学科専攻での同時開講を検討することが必要かもしれない。
- ・「データサイエンス入門」について、時間割に余裕があるのであれば、開講時期は 1 年次が適切であると考ええる。
- ・「音楽通論」について、科目名の広さから、音楽史、民族音楽、音楽理論、など多岐に渡る中で今後も内容の精査は求められる。

【その他・今後の検討事項等】

- ・政府の戦略・政策を踏まえて、具体的に数理・データサイエンス・AI の教育内容をどのように本学における教育課程に位置づけていくか。
- ・履修者数の確保と、将来的な非常勤講師への委嘱のしやすさを確保するため、学科・専攻により開講時期が異なる科目(「人間の心理」「生活と法」「言語と表現」)の開講時期を検討する。